

令和6年度 第3回 静岡県立浜松湖南高等学校 学校運営協議会議事録

1 日時 令和7年1月28日（火）

2 場所 静岡県立浜松湖南高等学校 会議室

3 委員 神村 美紀（令和5年度 P T A会長）

松本 雅美（ムンド デ アレグリア学校 理事長兼校長）

坂田 雄章（元自治会副会長・元中学校長）

杉山 哲也（河合塾浜松校 校舎運営チームチーフ）（欠席）

小杉 大輔（静岡文化芸術大学教授）

渥美 和弘（浜松市まちづくり推進課 雄踏協働センター所長）

4 内容

(1) 校長挨拶

(2) 学校関係者評価

(3) 学校の近況についての報告

(ア) 部活動の結果報告

(イ) 進路課より活動報告

(ウ) 「行きたい学校づくり」推進事業についての報告

(4) 意見交換

(5) 諸連絡

5 議事録（要点）

(1) 校長挨拶

学校の状況について報告。世間ではインフルエンザが流行しているが、現在のところ学級閉鎖なしで学校運営できている。また、3年生の共通テスト後の出願が始まっていることが伝えられた。

教育目標に「生徒に育成を目指す8つの力」が追加されることが伝えられた。

(2) 学校関係者評価

委員による事前評価をもとに、学校より補足説明を行った。取組目標とその達成状況を踏まえて委員で検討し評価を定めた。

(3) 学校の近況についての報告

(ア) 部活動の結果報告

生徒課長より11月以降の主に県大会大会以上を中心に大会の結果を報告した。

(イ) 進路課より活動報告

進路課長より現時点までの3年生の進路状況について報告した。

(ウ) 校長より「行きたい学校づくり」推進事業報告

校長より、教職員による先進校訪問報告、台湾交流訪問報告、うなぎの街フェスティバル報告、HAMANAN コンソーシアム第1回連絡協議会報告をした。

(4) 意見交換（高校に期待すること）

- 卒業生の保護者として、湖南高校がこれからも存在し続けることが大切だと感じている。
- 各取組は素晴らしいと感じているが、教職員の負担が大きくないだろうか。湖南高校のいいところを維持しているところは評価できる。
- 100%の教職員が仕事に行きたいと感じる学校になることを期待したい。
- 活気とチャレンジ精神が伝わってきて素晴らしい。未来に向かってやり続けて欲しい。
- スマホ教室、ケーキ作り、中村家住宅などの様々なイベントに湖南高校生に協力してもらい非常に感謝している。どのイベントも参加者に好評であった。
- 学校として十分に機会提供している。交流を通して相互理解をした後、それをいかにして発展させていけるかが課題であり、そこに期待したい。

(5) 諸連絡

副校長より各委員に1年間のお礼と、来年度の委員については、追って連絡させていただく旨を伝えた。